

品目		長雨・日照不足対策（3月）
麦類		<ul style="list-style-type: none"> ・湿害による根腐れや、これに起因する登熟不良が発生しやすいので、ほ場内に排水溝を設置するとともに、排水路の補修整備を行う。 ・出穂期以降に高温多雨になった場合は、赤かび病の発生による被害が懸念されるので、気象の推移に注意し、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。
茶		<ul style="list-style-type: none"> ・排水不良園では、過湿障害の発生が懸念されるので、ほ場内に排水溝を設置するとともに、排水路の補修整備を行う。 ・降雨により春肥の肥料成分の多くが溶脱・流亡している場合は、芽出し肥をやや多めに施用する。
野菜	露地野菜の栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・長雨寡日照により湿害が発生した場合や軟弱徒長傾向の露地野菜は、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って早めに防除する。 ・定植を準備している野菜は、耕起可能なほ場条件になり次第、基肥を施用してマルチングを済ませておく。 ・マメ類では、開花期に樹勢を見て、高度化成肥料を20～40 kg / 10a 施用する。 ・ブロッコリーでは早めに追肥と中耕を行う。 春穫りトンネル栽培のブロッコリーの場合は天候の回復後、早めにトンネルを除く。 ただし、2～3日換気率を上げて馴化をしないと著しく萎凋をする場合があるので注意する。 ・ナバナは肥切れになると白斑病が発生しやすいので、追肥を行う。 ・春ハクサイでは収穫期が迫っている場合、トンネルを除去した後、早めに防除と液肥の葉面散布を行う。 トンネル除去をする際はブロッコリーと同様に馴化をする。 ・タマネギでは罹病した場合、発病株を抜き取る。 ・ニンニクでは4月期に入ってから追肥は中止するとともに、窒素肥料の多い液肥の葉面散布を控える。
	施設野菜の栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・施設野菜では、病害が発生するおそれがある場合、燻煙剤、フローダスト剤、常温煙霧による防除を行う。 ・日中換気をしながら暖房機を運転するなどして、除湿に努める。 ・天候回復により萎凋症状が続くと生理障害につながるため、急な換気は避け、2～3日間作物を慣らしながら、窓の開放率を上げる。 ・萎凋が続く場合はパラフィン系展着剤を散布する。 ・施設ナスでは灰色かび病等により結果量が極端に少なくなることが懸念されるので、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の植物調整剤の使用上の一般的注意事項に沿ってホルモン処理を行う。結実後は病害の発生源である花弁を除去する。 ・トマト、ミニトマトでは寡日照が原因で葉が大型になり、果実の着色を阻害する場合がある。結実不良が続く場合は、果実付近の葉を半分程度に摘葉して、果実に光を十分あてる。 樹勢が強くなりすぎた場合は捻枝を行う。 「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の植物調整剤の使用上の一般的注意事項に沿ってホルモン処理を行うが、二回処理にならないように注意する。
果樹	対策 長雨排水	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌の過湿に対する根の水分ストレスを少なくするため、排水溝などを追加、点検し、ほ場の排水に努める。 ・元肥の流亡が多い場合は、春肥（4月）の施用量を20～30%多くする。
	日照不足対策	<ul style="list-style-type: none"> ・開花期にあたる果樹では、訪花昆虫の飛来が少ない場合、雨の間を見計らって人工受粉を行う。 ・高温多雨によって病害の発生が懸念される場合は、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・キウイフルーツ、ブドウにおいて、発芽率の低下と展葉・伸長速度の鈍化が懸念される場合は、初期葉数確保のため、芽かぎを行う。台風の影響で早期に落葉した場合は、着花が不安定になっているので、花を確認してから芽かぎを行う。

	施設栽培の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ビニール被覆によって光の投下量が減少し光量不足に陥る場合は、晴天日に内張りを剥がし、日射量を確保する。 ・新梢が軟弱に生育している場合、農薬散布は高温時を避け、換気をしながら行う。 ・加温栽培のブドウでは、軟弱徒長気味の新梢を適宜摘心し、不必要な枝をかぎとって結果枝の日照量を確保する。
花き		<p>・寡日照の条件下では、全ての花き類は軟弱徒長傾向になる。 長雨の場合、土壌の過湿による根腐れや立枯病など各種病害の発生が懸念される。以上のことから、次の対策を講じる。</p>
	露地栽培の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の流亡が予想される場合は、葉色等を見ながら追肥する。 ・雨天の間隙をぬって「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除に努め、病害虫の発生を防ぐ。
	施設栽培の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間は、十分に換気する。 雨天時には、換気扇による換気や、温風暖房機による間断送風を強制的に行う。 ・灌水は必要最小限に止め、こまめに行う。また、株元に灌水し、植物体に掛けないようにする。 ・病害が発生しやすい環境下では、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って燻煙を行い、噴霧器による薬液散布は必要最小限に止める。 薬液を散布する場合は、施設を密閉するまでに薬液が乾くようにする。 ・り病部分はできる限り除去し、直ちに施設外へ搬出して焼却処分する。 ・生育や商品価値に支障がない限り、下葉や余分な枝は除去して、通風採光をよくする。 ・寡日照が続く中での晴天時は、急激な温度上昇による葉焼け、茎折れなどを起こしやすいので、換気する。 ・施設周りの排水を徹底し、施設内部へ水が入り込まないようにし、根腐れ防止に努める。
	品目毎の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・キクでは、親株ほ場をできる限りビニールで雨よけする。 雨天、曇天日における電照時間は通常より2～3時間程度長めにする。 ・カーネーションでは、軟弱徒長傾向の場合、<u>整芽</u>を行う。 さび病を発見したら速やかに、り病部位を除去する。 ・草花類では、軟弱徒長に育っている場合、灌水をやや控え目にする。
畜産	畜舎の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・畜舎の周辺や運動場の排水溝の掃除をして、排水に努める。 ・畜舎内が高湿多湿になると、アンモニアガスの発生や雑菌が繁殖し、家畜に悪影響をおよぼすので、畜舎内の通風と換気に努め、敷料は早めに交換する等して畜舎内の乾燥に努める。
	飼料給与の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿で飼料が変敗、腐敗しやすいので、食べ残しがないように注意する。 ・雨に濡れた水分の多い青刈り飼料は下痢、<u>鼓張症</u>の原因になるので与えない。
	飼料作物の栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の排水に努め、根腐れを防止する。 ・刈取り適期の飼料作物や牧草は天候を見て、計画的に刈り取り、濡れないようにする。 ・播種予定のほ場では排水に努め、播き遅れのないようにする。